

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 21 年度

事業所番号	2770700678		
法人名	社会福祉法人博光福祉会		
事業所名	寿里苑フェリスグループホーム		
所在地	河内長野市加賀田885-2		
自己評価作成日	平成 22年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成 22年 4月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2770700678&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 2月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自慢できるところは多くはないですが、ご利用者や職員の笑い声が絶えない賑やかな事業所です。介護の専門家であるよりも、「とっても身近にいる顔を見たことのある人」でありたい、そんな気持ちで毎日を過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護老人保健施設と併設型のグループホームで、医療面、介護面での支援が得られます。開設7年目のホームであり、高齢化は進んでいます。開設時からの利用者も多い状況です。職員の退職や異動も少なく、馴染みの関係の中で継続的なサービスを提供しています。ホームの立地は高台の景色の良い場所にあり、春には桜、秋には紅葉が楽しめます。リビングには畳の間もあり、おひな様が飾られる家庭的な雰囲気、施設の愛犬「マロ」も利用者の癒しにつながっています。「ローズマリー通信」「ようこそグループホームへ」を発行して、家族や地域住民に写真入りでホームの様子を伝えています。職員は、利用者一人ひとりと一日一回ゆっくりとコミュニケーションを取り、小さな問題もみんなで考え、利用者同士がみんなと一緒だと嬉しいと思っていただけの事を目指しています。フェリスとは「幸せ」を意味する言葉であり、全ての人が心から願う幸せを感じていただけることをモットーに努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念にもありますが、開設当初より『地域に根ざした』運営を実践してきたつもりです。事業所で全てを完結してしまうのではなく、事業所の理念にもある通り、地域の関係各機関と協同し、ご利用者の利益を第一に考えた運営の実践に努めています。	職員で考えた『①皆様の立場に立ち、考え、話し合いを持ち、大切な家族の一員である事をお約束します。②私たちは誠意を持って行動し、努力することをお約束します。③地域・家族・あらゆる関係機関の協力を頂き、皆様の何時までも安心できる住まいであることを約束します。』をホーム開設時から独自の理念として掲げています。額に入れた理念はホームの入口に置き、職員はもとより、利用者・家族も目にすることができます。職員は理念の通り、地域の理解と協力を得ながら、利用者本位の支援を実践しています。	ホームの理念は、定期的に発行しているホーム便り等に時には掲載し、ホームが家族や関係者の皆さんの一層の理解、支持を得られる一助にされてははいかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩で地域の方々と挨拶をさせて頂く機会が多くあります。職員から積極的に…と言うよりは、利用者の方々のほうがそのような場面に長けておられる場合が多く、自然な流れとして、地域に出かけることでたくさんの交流に恵まれています。散歩されている方が声をかけてくださり、当事業所にボランティアに来て下さるなどの発展がありました。	老健に併設しており、地域ボランティアの来訪に恵まれています。お茶会、書道、琴演奏、踊り等いろいろな楽しみごとがあります。利用者は、ホームの一員である愛犬との散歩で、日常的に地域の方と触れ合い、交流を図っています。散歩で知り合った地域の方が、利用者の話し相手にと、ボランティアとして来訪する機会に繋がりました。買い物に同行するボランティアもいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>管理者は法人の運営するヘルパー二級講座の講師を務めています。また、電話やメールでの相談を随時受け付けています。受身な体制ではありませんが、現状でできる限りのことを誠意を持って行っていきたく考えています。現場での経験をまずは「知ってもらう」ことから認知症への偏見をなくし、高齢者の視点に立った人材の育成に努めています。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、定例の報告とは別に意見交換の場を設け、福祉を取り巻く時事問題についてを話し合う大変意義の大きい機会となっています。問題意識を持つことで、利用者の方々への支援のあり方が少しずつ変化してきているように思います。</p> <p>外部評価の結果を運営推進会議委員や閲覧を自由にできる環境を整えており、意見を伺う機会も設けています。</p>	<p>地域の代表、老人会の代表、市職員の参加を得て、運営推進会議を開催しています。会議では、ホームの状況報告、意見交換、課題の検討を行い、会議録を作成しています。会議の内容では、昨年新型インフルエンザの対策について、市職員から再々適切な情報提供があり、利用者支援に役立てる事ができました。緊急時の搬送、ホーム周辺の道路整備等の意見交換もできました。市職員の都合もあり、会議の開催は年4回です。</p>	<p>運営推進会議は年6回、概ね2ヶ月1回開催することが求められます。家族、地域の方が参加するホームの行事の際等、ホームの報告、意見交換会等開催方法の工夫をされてはいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことがあれば分野別に、市の担当者からアドバイスがもらえます。分からない事を曖昧にせず確認しながらの運営を行っています。また、取り組みの具体的な内容も随時伝えるようにし、市町村側にも分かりやすい運営状況を報告しています。	市職員とは利用料の請求内容等について、利用者や家族の質問にも説明ができるよう確認したり、アドバイスを受けたりすることで情報を得ています。運営推進会議に参加があり、サービスに必要な適切な情報を得ています。市には事故報告も行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	大型施設であるが故の閉鎖的な空間ではありますが、常用している玄関は日中開放しています。感染症などで深刻な事態が発生するリスクが高い場合に限り、扉を施錠する場合がありますが、外部との行き来は常に可能な状態を開設当初より保っています。また、定期的に身体拘束についての勉強会を実施し、行動や発言を制限することの意味や薬剤使用に関するメリット及びデメリットを学べる機会を得ています。	身体拘束をしないケアの実践の理念、方針を掲げています。また2ヶ月に1回の頻度で、身体拘束排除の勉強会を実施しています。職員は身体拘束に該当する事項を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。日常的に、ホームの玄関は開錠されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>当事業所は、大型施設故の施設にありがちな環境的デメリットもありますが、常に多くのご家族や関係者の方々が来苑されることで、より開かれた環境にあることが大きなメリットであると考えています。ご家族や外部の方々から常に見守られていることで交流の刺激があり、それらが規律を維持させるための抑止力となっていると思っています。また、職員の身体的・心理的ストレスの状況を把握し、無理のない勤務体制や休日の配分を心がけることでご利用者に余裕をもった関わりができるよう努めています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度については、勉強会にてのみですが机上で学ぶ機会を得ています。全ては知ることから始まると考え、机上の勉強でも意義深いことと思っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者の思いやご家族の考えは様々です。じっくりお話を伺い、少しでも不安の少ない利用となるよう努力しています。ご家族にしか出来ないこと、職員でも出来ることの説明をさせて頂き、共に協力してご利用者を支えていきたい旨をお伝えするようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からご面会の際などに、ご家族の方からお話を伺うようにしています。遠慮はあるかと思いますがご家族は職員にいつも温かい声をかけてくださることが、資質の向上へ向けた努力をしていく過程での大きな励みとなっています。	意見箱を設置していますが、これまでに意見が入っていたことはありません。家族かの運営に対する意見・要望はまだまだ少ない状況ですが、家族の来訪時には積極的に意見や要望を聞くようにしています。日誌に利用者・家族の希望、要望欄を設けるなど、小さなことにも聞き逃さず対応しようという姿勢があります。最近、利用者・家族の意見・要望等に対応した例として、新しいパジャマに交換して欲しいという利用者の要望を受けて家族に交換を依頼したり、そろそろ散髪してほしいという家族の要望を受けて散髪屋に連れて行ったり、母の日に家族が持参したカーネーションを家族の申し出によりフロアに飾った等の例があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は毎月の会議において厳しい指摘を職員にすることはありますが、反対に職員の話しも良く聴き、打開策を共に考えるスタイルで仕事を進めています。互いに妥協できず時には喧嘩になることもあります。守るべき人や事柄のために意義のある討論となることが多いです。</p>	<p>職員会議では、介護職員のあり方やサービスの実施について、上司から厳しい指摘やアドバイスがありますが、職員も自分の考えや意見を自由に述べることができます。業務の改善事項等で意見の相違もあり、真剣な話し合いの結果、皆の気持ちがひとつになることが多くあります。コップの消毒方法等で職員の意見が反映された事例があります。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>規模の大きい法人ではありますが、代表者である理事長は定期的に現場に足を運び、ご利用者への挨拶や職員への労いの言葉を忘れません。課題を明確に提示し、目的を持った仕事への取り組み方についてのアドバイスもあり、職員のモチベーションアップにつながっています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個人の力量や拘束時間などにも考慮した研修を行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	河内長野市では、3ヶ月に一度の割合でグループホーム事業所全体の交流会を実施しています。毎回テーマを決め、勉強会を実施したりテーマに沿った事例検討などを通して互いの資質向上に取り組んでいます。同じ事業者同士ならではの連帯感があり、心強いです。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のみならず、ご家族や関係機関と連携し、スムーズなサービス導入となるよう努めています。その際はホームで出来ることの限界もお伝えするように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人のみならず、ご家族や関係機関と連携し、スムーズなサービス導入となるよう努めています。その際はホームで出来ることの限界もお伝えするように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生命を守るために重要な事項と生活を守るために重要な事項を職員間で共有し、サービスの導入に入ります。法人内の多機能性を活かした事業所を超えた取り組みも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者それぞれの役割があり、それらに支えられて今までやってこれた様に思います。私たちのホームでは、喧嘩あり・笑いあり・涙あり、とても賑やかです。重度になられても存在感のある頼もしい方々がたばかりです。いかに笑ってもらえるか…をモットーにこれからも努めていきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力なくしてはご本人を支えることは難しいです。ご家族と共に悩み、喜びを共有していきたい気持ちで日々取り組んでいます。問題ばかりに囚われず、楽しいエピソードこそ積極的にお伝えしていきたいと考えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他サービスを継続させて頂いたり、行事に呼んで頂いたり馴染みの地域に積極的に出かけることで環境や関係の維持に努めています。顔見知りの方から声をかけていただくことが職員の喜びにも繋がっています。	利用者は地元の方が多く、馴染みの店に出かけた際には、利用者の知人や友人がよく声をかけてくれます。職員は、利用者の知り合いがよく訪れるスーパー等を選んで、買物に同行するようにしています。利用者の友人が、本や食べ物を持参して、ホームに訪ねてくれることもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人が好きの方や賑やかな環境が好きの方様々おられますので、意向に沿った支援に努めています。お一人がお好きな方でも行事などへの参加から、関係が深まり喜びにつながるケースも多々あります。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院への入院や他施設へ居所が変わられた以降もご家族やご本人と関わりを持たせて頂いています。ご家族や主治医から近況の報告があり、契約が終了してもご本人含めたお付き合いを今までと変わらずさせて頂いていることに感謝の気持ちでいっぱいです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりの願いやご家族の想いを大切にした支援を心がけているつもりです。困難な場合でも、共に悩み、その苦悩を共有することで得られるものも多いです。	利用者一人ひとりの思いに添ったケアを大切にしています。食事の後は椅子でゆっくりしたい方、ベランダに出て日向ぼっこをしながら休みたい方、食事の後片付けを手伝う方等、職員は利用者のそれぞれの思いを感じとりながらそっと支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入前に得られる情報もあれば、生活をしている中で得られる情報も多くあります。ご家族に生活のエピソードをたくさんお話することで、後からの情報が多く集まってき、職員間で共有しています。ご家族やご利用者と一緒に悩み、実現がたとえ困難なことがあっても苦悩を共有する過程が重要であると考えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの過ごし方の好みを把握しています。干渉を嫌われる方や賑やかに過ごしたい方など様々ですが、そればかりに囚われず、交流の機会を支援したり、逆に静かな環境を提供できるよう、場面や想いを反映した配慮に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者個人の主観で計画を立案せず、職員の多くの主観の中から客観性を見出し、プランに反映させています。ご家族からの協力が多く、ご家族の支援もプランに盛り込んだ内容としています。作って嬉しい・もらって嬉しいプランをモットーに取り組んでいます。	介護計画は、職員の相談で作成することはもとより、家族の協力も得て作成しています。できないことよりできることを優先した、プラス思考のプランを心がけています。そのためには、家族の支援もプランに組み込まれています。徘徊の習性がある利用者には、友達になった気持ちで一緒に歩く支援等の事例もあります。モニタリングは毎月行い、介護計画に反映しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	具体的なエピソードを踏まえつつ、事実を有りのまま記入するようにしています。しかし、画一的な内容になりがちで、今後も研鑽が必要と考えています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限りの努力を行っています。常識を重んじるが故に個人の自由な発想の芽を摘んでしまうことがないよう、常に考えた支援のあり方を考えています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設での日常と区別して、地域の非日常に出かけるということをご利用者にとって良い刺激になっています。馴染みの少ない地域であっても、外出支援は個人の思わぬ力を確認できる絶好の機会と考えており、今後も継続して取り組んでいきたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は認知症についての知識が深く、ご利用者とのスキンシップを大切にしながら診察を進められます。ご利用者と共に苦しみ共に笑い、抱き合う大切さを誰よりも理解されていて職員もその姿勢に学ぶことが多いです。ご利用者の入院や他科受診にあたっては迅速な指示を出して下さりつつもその経過を常に心配し、退院されたら抱き合って喜んでくださる主治医です。人間として尊敬する医師に大切にご利用者を委ねることに大きな安心感があります。	主治医は毎週金曜日に来訪し、利用者との会話を大切に診察してもらっています。心配なことがあれば、いつでも連絡して安心感を得ています。また、かかりつけ医の希望があれば対応しています。歯科は年1回検診として来訪してもらっています。眼科、皮膚科等については必要に応じて近隣の病院を受診し、併設施設の看護師も1日1回グループホームを訪問し、適切な助言や指示をもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設デイケア看護師に毎日状況を報告し、適宜アドバイスをもらえる関係にあります。生活上のアドバイスや状況に変化ある時など、日常的に療養や生活上のアドバイスがあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院にはいつも入退院の際、スムーズな連携をいただいています。施設としては安心感があり、また大変心強いです。入院や退院時の日程調整から緊急時における円滑な受け入れまで、日頃から大きな協力があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて主治医を交えた話し合いを行っています。重度化、また病状の転機を迎えられるにあたり、ご家族の感情は常に流動的です。状況の変化がある中で、主治医を交え現状報告や今後の見通しについて話し合いの場を積極的に持つようにしています。	終末期や重度化した場合の対応については、常に話し合う機会を持っています。医師、看護師、家族、介護職員共に、意見の確認を図りながら取り組む姿勢があります。家族の意見も流動的で、今までに看取りの経験はありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設老健看護師を中心にした勉強会を実施しています。また、自治体の主催する救命訓練などにも参加しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルがあり、年2回、避難訓練を実施しています(うち1回は消防と協力)。ご利用者もできる限り参加して頂き、非常時における体制のあり方の見直しを実施しています。	災害マニュアルを作成しています。年間2回、利用者と共に避難訓練を実施しています。そのうち1回は消防署の協力による訓練を実施しています。飲料水等の備蓄も整えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	他人行儀になり過ぎず馴れ合い過ぎず、状況によった対応をさせて頂いています。定期的なマナー研修を通し、社会人として、また人として他者の立場にたった対人援助の方法を勉強する機会があり、実践に活かせるよう勤めています。私たちの施設では、「他人にされて嫌なことはしない・言わない」を最低限のマナーとしています。	職員は定期的なマナー研修を通して対人援助の方法を学び、毎日の申し送り時や会議でもプライバシーについて話し合っています。利用者一人ひとりの気持ちに寄り添い、「他人にされて嫌なことはしない。言わない。」を守るよう心がけて支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	長年生活されている方々とは普段の生活の中で笑いあったり喧嘩したりしながらご本人の意思決定を支援させて頂いています。重度のご利用者でも、過去の経験を現在に照らし合わせ、ご家族と相談しながら支援の実行しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の制限や決まりを優先させる場面はあっても、その中でご本人の生活ペースに合わせたり、過ごし方の好みに合わせた支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族のご協力が大きく、こまめに支援してくださっています。今までの生活スタイルを大切にした洋服の持参があり、スタイルを維持するお手伝いが出てくることに喜びを感じる事が出来ます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に約二回、食事作りを行っています。好みの献立の買い物や、調理しながらのお喋りが楽しいです。皮むきが得意な方・干切りや漬物きりだけを好む方・片付け専門の方と、それぞれの専門家がおられるので、楽しいです。また、時にはカップラーメンや出来合いの物の希望がありますが、器に工夫を持たせることで貧相にさせず、心豊かな食事場面となるように配慮しています。てんさい糖を使った飲み物の工夫や、さつま芋や旬の果物のおやつ・デザートはご利用者に変人気があります。	3食共、併設施設で調理されたものを運んでいます。年数回はにぎり寿司、天ぷらや串カツ等、グループホームに調理師が来訪し、その場で調理してもらい、できたてを堪能しています。週2回はグループホーム内で好みの献立で調理しています。利用者それぞれが調理の仕事を分担して活躍しています。高齢者は栄養分の備蓄ができにくいため、工夫して美味しく食べて免疫力アップを心がけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	一日の食事量と水分量を記録していま す。また、体調が優れない時や、ご高 齢となり、好みの物しか食べることが 難しいご利用者には、トーストや餅で の主食にしてみたりと、出来る限りの 工夫を行い、食事量やカロリーが維持 できるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しています。 風邪が流行する季節ですので、うがい 薬の提供や、歯磨きの支援を実施して います。また、歯科医師による口腔チ ェックも年一回、全利用者を対象に実 施していますし、普段から歯科医に気 軽に相談できる環境にあり心強いで す。歯科医は、口から食事を摂ること の重要性を専門家として深く熟知され ており、休日や夜間の急な往診要請に も迅速に対応して下さっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	排泄パターンや摂取している水分量や 気温、発汗などに考慮した排泄の支援 を実施しています。現在のところ、重度 のご利用者でもトイレでの排泄が可能 です。毎回トイレでの排泄があり、職員 のモチベーションアップに繋がっていま す。	排泄チェック表を使用して、利用者一 人ひとりの排泄パターンを把握し、昼 間はできるだけトイレを使用してもらえ るように支援しています。重度の利用 者もオムツの使用を減らし、気持ちよく トイレで排泄できるよう、水分の補給や 繊維質の食物を摂ることを心がけてい ます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食への関心が高いご利用者やご家族が多いので、自然と意識が高まっています。健康飲料やヤクルト、ヨーグルトを活用したり、日常生活を営む上で出来る限り身体を動かすような場面の提供に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	限られた職員の体制とご利用者の体調や身体の状態に合わせて、出来る限りご希望の時間帯や曜日に配慮した支援を実施しています。	お風呂は毎日沸かしていて、希望者は毎日入浴する事もできます。また、車椅子の利用者は併設の施設の機械浴に入浴される方もいます。デイサービスの入浴時間に入浴して満足されている方もいます。入浴時間は概ね午後になっていますが、習慣や好みを聞きながら支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居以来7年間、毎日クラシックやお好きな音楽を聴きながら休まれるご利用者がおられたり、低反発枕や無圧布団を使用されているご利用者もおられます。大型施設で決まり事も多々ありますが、可能な限りでの対応をさせて頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や内服の狙いを主治医に確認しています。また、主治医に全てをお任せするのではなく、その薬について調べることも大切であると考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	私たちは、特別なことは何も出来ませんが、笑う力を大切にした支援を心がけています。個人の楽しみや精神的・身体的な安楽につながるよう、毎日支援しています。ご利用者にとって、単なるお世話係りとして存在するのではなく、極めて身近な他人として・生活者として共に活動させて頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日、その時の希望により、できる限り願いが叶う外出を心がけています。遠慮やそれぞれの性格もあり、希望を口にすることが難しいご利用者もおられますので、日常の会話等から思いや願いを確認し、外出の支援に活かしています。ご家族の協力が多く、定期的な外出の支援や外泊、外出が難しいご利用者のご家族はこまめな面会…など、個人の状況に合わせた外出や気分転換へのご協力があります。	天気の良いときは、犬と一緒に毎日散歩に出かけています。また、外食で回転寿司や買い物、家族とレストランに行かれる方もいます。同法人の診療所へ車で受診に行かれる方や、毎日喫茶店でお茶を楽しまれる方もいます。初詣やお花見に出かける機会も作っています。外出が難しい方には、家族が頻繁に面会に来られて、体調を見ながら短い散歩などを楽しまれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の支援により、小額でも自由に使えるお金を所持されています。売店でお菓子を購入されたり、近隣スーパーで果物を購入されたりし、存分に活用されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を利用されるご利用者は比較的多いですし、年賀状や暑中見舞いなどの支援を行っています。隔日でご家族から電話が入るご利用者もおられ、家族のあり方について考えさせられます。とても素敵な電話タイムとなっています。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	私たちの事業所は、大型施設によく見られる家庭とは赴きの異なった環境であることは否めません。ですができる限りの工夫を行っています。季節の花を生けたり、毛糸が転がっていたり犬(マロ君)がいたり、一般のご家庭の様にとはいえませんが、適度な雑多感を大切に、居心地重視の環境作りに勤めています。	玄関からグループホームへの通路は広くゆったりとしていて、飾り付けも楽しめます。共有スペースの畳の部屋にはお雛様が飾られ、掘りゴタツでの食事風景が見られました。陽当たりが良く、窓からは季節の花が眺められ、ベランダには喫茶スペースが設けられ、ホームで飼っている愛犬とゆったり日向ぼっこをする姿が見られました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中では、お一人おひとりの願いに合致した居場所があるように思います。一人の時間がお好きな方は共有空間の中でも他者と一線を画した籐の椅子でゆっくりされたり、賑やかに過ごしたいご利用者同士が集まるスペースがあったりと様々です。職員が工夫した箇所もあれば、ご利用者が長年かけて開拓してきた場所もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族のご協力があり、長年愛用されていたタンスや大切な家族写真、使い慣れた布団などたくさんの馴染みの物を持参下さっています。それを職員は大切に活用させて頂いています。	各居室には洗面所、トイレ、クローゼット、テレビが備えられていて、使いやすく整理しやすくなっています。利用者は、自宅から持ち込まれた家具や飾り物を配置され、家族の写真、思い出の作品などを飾られ、各自が馴染みの品々の傍らでゆったりと居心地良く過ごされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大型施設ですので、ある程度の標準的なものは既設済みですが、個人の力に合わせた工夫を行っています。たとえばご本人が作成した表札やトイレの目印など、簡単な工夫でもご利用者の不安が解消する場合がありますので、今後も普段の生活の中の気付きを大切にし、工夫がたくさんある居所作りに努めていきたいと考えています。		